

三河商人道

PART
151

九鬼コンピュータ会計株式会社
代表取締役
九鬼 義弘 君

青年部に「感謝！！」



「喜んでもらう喜び」。この言葉を大切に、三河を中心に税理士法人九鬼会計事務所と九鬼コンピュータ会計株式会社を営む、九鬼義弘さん。いつもどおりの、体からにじみ出る「優しさ」と、包み込んでくれるような「包容力」。取材当日も柔らかな雰囲気の中でお話をいただきました。

昭和41年、九鬼さんのお父さんが税理士事務所を開設され、平成17年に代表を交代。代表交代にあたり、「古参の社員さんに大切に接していかななくてはならない」として「いつでも謙虚であり、お客さんに対しても謙虚で親切であること」。その言葉を胸に日々社業に勤しんでいると話してくれました。

商工会議所青年部に入ったきっかけは、小・中学校の同級生の永田龍寛さん。時同じくして青年会議所からの誘いもあったが、商工会議所青年部を選んだ。青年部では早い時期に委員長をやると同時に、青経連にも出向をしたそうです。その際、青年部では3月例会担当、青経連も3月が担当。そして仕事柄一番忙しい3月と今でもその多忙だった記憶が残っていると言われました。しかし、そのような忙しい中でも青年部を休むことなく皆勤賞だった。また、先輩としてこういった言葉もいただきました。「忙しく用事があって休むのはわかるし、仕方が無い事。しかし、何の返事も反応も無い人を許す事が出来なかった。」九鬼さんのお話からは、相手の事を考え、言いにくいことでもはっきりと伝えられる。それこそが本当の優しさだと感じる事ができました。

商工会議所青年部に入って一番記憶に残る事は何かと尋ねたところ、岡崎主催の青年部ソフトボール大会でホームランを打ち大活躍をされた事だそうです。その活躍があってから青年部のメンバーと馴染めるようになっていったと言われてました。また、そのソフトボール大会では岡崎が優勝したそうです。その際に活躍された吉口さんと以前より知り合いだった三光家具の齋藤さんに自身が委員長のときの副委員長をお願いされたそうです。九鬼さんは、高校、大学まで野球をやっており、野球を通じて色々な人間関係を築かれてきたのだと感じました。

また、このような話もしていただきました。32歳で入会した時は、先が長いなと思っていたけど、改めて50歳を過ぎてあっという間の時間だったと感じている。特に40代のころは色々な団体が役が回ってきた。忙しく過ごした分、時間が早く経つように感じたのだと思う。その時、色々な人が支えとなっていただき、今卒業を迎えることができる。自分は理事をその1回だけしか経験してはいないが、是非まだの方には理事を経験して欲しい。その1年の努力は必ず活きるようになる。また、志を持った人が理事をやるべき。会社の大小は全く関係ない。この話を聞き、まさにその通りだと感じました。

加藤委員長が沖縄でたまたま、九鬼さんの社員旅行と遭遇した際、九鬼さんの若い社員さんが目をキラキラさせながら、「社長が好きで好きでたまらないんですよ」と言っていたそうです。私たちが取材の際も、入口の若く綺麗な女性社員が明るく、優しく、そして元気に案内をしていただきました。九鬼さんは自分が雇用した社員も家庭を持ち、子供を持つようになる。その家族のことも考えて仕事をしなくてはと考えているそうです。自分の事よりも、社員さんのことを優先し考える九鬼さんのそういった姿勢が社風につながっているんだと強く感じました。

最後に、「青年部に入れたことを感謝しているし、色々な方々と知り合う事ができた事にも感謝している。しかし卒業してからどうするかが大切ではないか」と。「今いるメンバーにも気をかけて、長くつながっていきたくて考えています」と最後まで優しい九鬼さんを感じる事が出来る取材でした。九鬼さん、ありがとうございました！



九鬼コンピュータ会計の本社ビル



青年部手帳を手に話す九鬼さん



取材スタッフと記念撮影



取材担当/
渉外委員会
加藤雄一郎、櫻井喜朗
柴田法昭